

日本人口学会第 78 回大会のお知らせ

2025 年 11 月 29 日
日本人口学会第 78 回大会
大会運営委員長 高橋美由紀
大会企画委員長 小西祥子

日本人口学会は、第 78 回大会を 2026 年 6 月 6 日(土)、6 月 7 日(日)の 2 日間、立正大学品川キャンパスにおいて開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。

大会では、下記の通りシンポジウム、企画セッション、大会前日の特別セッションを設定している他、自由論題報告を会員の皆様から公募しますので、奮ってご応募ください。

セッションタイプ	セッションタイトル	組織者	使用言語	備考
シンポジウム	「出生抑制」(少子化)を考える ——マルサス『人口論』第 6 版 (1826 年)刊行 200 周年にあたつて	日本人口学会・マルサス学会・立正大学経済研究所・麗澤大学人口家族研究センター 合同企画	Japanese	
企画セッション 1	Time Use as a Lens: Comparative Analysis of Life Course, Social Roles, and Well-being in China and Japan	Yalei Zhai (Kyoto University)	English	
企画セッション 2	人口移動分析の方法:新たな展開と課題	中川雅貴(国立社会保障・人口問題研究所)	Japanese	
企画セッション 3	性と生殖の生態学	小西祥子(東京大学)	Japanese	
特別セッション	第 10 回 地方行政のための GIS チュートリアルセミナー:交通インフラと GIS	小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)、井上孝(青山学院大学)	Japanese	大会前日 (2026 年 6 月 5 日)開催
自由論題報告			Japanese / English	公募

* 詳細は 3 ページ以降

【出欠の登録ならびに報告の応募】

筆頭報告者として報告が可能な自由論題報告は、一大会につき一回のみです。複数の自由論題報告で筆頭報告者になることはできません。なお、企画セッション及び特別セッションにおける研究報告は、自由論題報告とは別に、回数の制限なく行うことができます。また、大会へは非会員でも参加可能ですが、自由論題での報告には日本人口学会の会員資格が必要です。また、シンポジウムと企画セッションの報告は公募ではありません。

【報告要旨のWebへのアップロード】

実効性のある報告内容の情報提供を図るため、要旨等の報告内容の情報はすべて学会マーリングリストやホームページを通じて閲覧ならびにダウンロードできるよう準備しております。報告要旨集の紙媒体による印刷・製本物の配布はいたしません。

【会場】対面開催

立正大学品川キャンパス

参加費等のご案内は、開催校より改めてお知らせいたします。

【大会関連のお問い合わせ先】

大会企画委員会(企画内容、報告登録など)

大会企画委員会 paj2026[atmark]paoj.org

開催校(会場関係、報告設備、参加費支払など)

大会運営委員会 高橋美由紀 takahashi.miyuki[atmark]rissho-univ.jp

学会事務局(会員資格や入会手続き等について)

日本人口学会事務局(学会支援機構内)paoj[atmark]asas-mail.jp

<シンポジウム> *Open Symposium*

「出生抑制」(少子化)を考える
——マルサス『人口論』第6版(1826年)刊行200周年にあたって

日本人口学会・マルサス学会・立正大学経済研究所・麗澤大学人口家族研究センター 合同企画

座長: 小沢佳史(立正大学)

趣旨: 『人口論』第6版刊行200周年にあたって、トマス・ロバート・マルサスが主張した「人口制限」とは何かを考えるとともに現代におけるその思索の意義を解明する。少子化に直面し様々な問題を問われている日本を始めとする世界各国について、改めて各方面の識者からの意見を伺い、今後の社会の持続可能性についても考察する。現在の日本における少子化—子どもを持たないという選択一について考察した場合、その要因には経済的理由や文化的理由などが存在する。なぜ、ひとびとは子どもを持つことを選択しない・出来ないのだろうか。出生が抑制され、人口が現在以上に増加しない、あるいは減少すること(「人口制限」)は地球における有限な資源を枯渇させないために必要なのだろうか。地球上の資源・経済と人口との関係を考えると今後私たちの社会が持続していくためには、どうすべきなのか。

現在日本をはじめとする多くの地域で生じている少子化について、経済的側面・文化的側面および歴史的な人口変化やマルサスを中心とする人口に関する学説などさまざまな方面から多面的に広い意味での「人口制限」に関する問題を取り上げて今後の私たちの社会の持続性についての方向性を考察したい。

報告者:

開会挨拶: 宮川幸三(立正大学経済研究所長)

趣旨説明: 高橋美由紀(立正大学)

報告者 1. 森木美恵(国際基督教大学)

報告者 2. 柳沢哲哉(埼玉大学)

報告者 3. 鬼頭宏(上智大学名誉教授)

報告者 4. 吉川洋(立正大学元学長・東京大学名誉教授)

討論者 1. 井上孝(青山学院大学・日本人口学会会長)

討論者 2. 山崎好裕(福岡大学・マルサス学会会長)

閉会挨拶: 黒須里美(麗澤大学人口家族研究センター長)

備考: 非会員の方がこのシンポジウムのみを聴講する場合は参加費無料

<企画セッション1> **Panel Session 1**

Time Use as a Lens: Comparative Analysis of Life Course, Social Roles, and Well-being in China and Japan

Organizer: Yalei Zhai, Kyoto University

Chair: Yalei Zhai, Kyoto University

Session Description:

This session uses harmonized time-use evidence to examine how daily allocation of time shapes life-course trajectories, social roles, and well-being in China and Japan. Four papers anchor the discussion. Paper 1 (Song) analyzes how one's own and a spouse's overtime work influence fertility intention via "family time collaboration," tracking how dual-earner couples coordinate leisure and reproductive labor. Paper 2 (Li) compares caregiver-side burdens of eldercare, documenting participation, intensity, gender and life-course differences, family structure effects, and spillovers to work and health, positioning China's family-based care against Japan's earlier institutionalization. Paper 3 (Jin) links long working hours to fertility intentions using nationally representative data, assessing heterogeneity by occupation and parity and the mediating roles of income and job satisfaction in two low-fertility contexts. Paper 4 (Lyu) maps school-age children's time across study, sleep, digital use, physical activity, social interaction, and paid work, revealing regional and socioeconomic disparities tied to well-being and educational outcomes. Together, the papers show how time within couples, across generations, and through childhood, connects production and reproduction, and indicate policy levers in labor regulation, eldercare and childcare services, and family-friendly workplaces in aging East Asia. All papers draw on comparable national time-use surveys and recent statistics to ensure cross-country comparability.

Speak 1: How Does Overtime Work affect Fertility Intention: From the Perspective of Family Time Collaboration

Yueping Song (Renmin University of China)

Speak 2: A Comparative Study on the Burden of Family Care for the Older People in China and Japan: Key Findings Based on Time Use Survey Data

Ting Li (Renmin University of China)

Speak 3: Working Hours and Fertility Intention: A Comparative Study in China and Japan

Yongai Jin (Renmin University of China)

Speak 4: Comparative Study of School-Age Children's Time Use in China and Japan

Lidan Lyu (Renmin University of China)

<企画セッション2> *Panel Session 2*

人口移動分析の方法:新たな展開と課題

組織者: 中川雅貴(国立社会保障・人口問題研究所)

座長: ※未定

討論者: 小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)

趣意文

人口移動の水準やパターンを測定し、その地域差および変化の要因を分析することは、とりわけ地域レベルの人口変動を理解するうえで決定的に重要であり、地域人口分析においても中心的な課題の一つとして取り組まれてきた。日本国内の大半の地域では、高齢化の進展による自然減の拡大が人口減少を加速させ、地域人口の変動に対する人口移動の影響は相対的に低下する一方で、東京圏の転入超過はコロナ禍を経て拡大を続けていく。また、近年の外国人人口の増加は国内人口移動の動向にも影響を及ぼし、多くの地域で新たな人口変動要因として顕在化しつつある。

ミクロレベルで見ると、進学・就職・家族形成といったライフイベントの発生を背景とする移動のタイミングや経路は、ライフコースの多様化や非定型化に伴っていっそう複雑化している。このため、移動の生起や居住地選択に関する分析にも、新たな視角と方法が求められている。

本セッションでは、こうした近年の人口移動分析が対象とする課題にアプローチするうえでの方法論的側面に焦点を当て、各研究者による取り組みと成果、そして課題を共有することを目的とする。具体的には、住民基本台帳人口移動報告や国勢調査といった「伝統的」な統計リソースの拡充を踏まえた分析の拡張、大規模ミクロデータを利用した先端的な計量分析手法の導入、さらに従来の人口移動分析ではあまり用いられてこなかった新たなデータの活用などが含まれる。

人口移動は多分野にまたがる学際的な分析対象であり、研究者の専門や関心も多岐に渡る。本セッションでは、分野や分析テーマを超えた研究者間の議論を通じ、人口移動分析の方法における新たな展開と課題を共有する機会としたい。

報告予定者

※4名程度(非会員を含む)

＜企画セッション3＞ *Panel Session 3*

性と生殖の生態学

組織者・座長：小西祥子（東京大学）

趣意文：

学術変革領域(B)『性と生殖の生態学』プロジェクトは、少子化と「不妊」の増加をもたらすシステムの解明を目指して2025年度から開始した。本セッションでは日本における不妊症の有病割合に関する全国調査の結果を報告するとともに、不妊や出産を経験した女性を対象として実施したフォーカスグループインタビューと、臨床で不妊治療を行う医師を対象としたインタビュー調査の質的統合法による分析結果について報告する。また自治体における不妊相談や性教育の実態に関する調査結果についても報告する。不妊およびその支援や治療の実態について定性・定量の両面から分析することによって、ミクロな行動の集積がマクロな人口動態として現れるシステムの理解を目指す。

報告者（予定）

赤川学（東京大学）

杉田菜穂（大阪公立大学）

前田恵理（北海道大学）

森木美恵（国際基督教大学）

小西祥子（東京大学）

討論者（未定）

<特別セッション> *Special Session*

第 10 回 地方行政のための GIS チュートリアルセミナー: 交通インフラと GIS

日時: 2026 年 6 月 5 日(金)(大会前日)午後

場所: 立正大学品川キャンパス(本大会と同一)

組織者: 小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)、井上孝(青山学院大学)

座長: 未定

討論者: 設けない

報告予定者: 未定

趣旨: 昨今、GIS(地理情報システム)の急速な普及と人口データの利用環境の向上によって、市区町村レベルあるいはそれ以下のいわゆる小地域レベルでの人口分析が容易に行えるようになった。これらの人団分析の技法は、少子・高齢化対策、過疎対策、都市計画、交通計画、防災、地域医療・福祉など、地方行政のさまざまな分野で大いに役立つことが期待できる。しかし、こうしたノウハウを啓蒙する機会は公的機関や一部の地方自治体が主催するセミナー等に限られており、必ずしも進んでいるとはいがたい。一方、日本人口学会はこうした人口分析の技術を有する専門家が多数所属しており、こうした技法を地方の行政担当者へ伝達することも学会の社会的貢献の一つと考える。本セミナーは、多数の参加者が集う大会開催時にこうした趣旨を実行に移すべく企画されてきたものであり、これまで、9回にわたって全国の国公私立大学にて実施し、近隣の自治体関係者を中心に多数の方々にご参加いただいた。また、第8回よりテーマを設けてセミナーを開催する方針を取っており、今回は第8回の「防災」、第9回の「地域医療」につづき、「交通インフラ」をテーマとして掲げることとした。このテーマには次に示す諸事象とその分析手法を含意すると考えていただきたい。その諸事象とは、すなわち、道路や鉄道のネットワークならびにそのネットワーク上の人口流動、あるいは、それらのネットワーク近傍の人口分布などである。